

# ケアリーバー支援事業

18歳で自立していかなければならない現実

児童養護施設では制度上の改革が進む一方で、多くの若者が依然として18歳で施設を離れ、十分な準備のないまま自立を強いられているのが現状です。  
生活を確立できず、社会からドロップアウトし坂道を転がり落ちていく、そんな若者たちが多数存在しています。

## ケアリーバーが抱える現実

### 経済的自立の難しさ

安定した正規雇用に就けず将来の見通しが立たない若者も多く、生活費や教育費、奨学金の返済に追われ、家計が逼迫しているケースが少なくありません。

### 住まい探しと自立生活の難しさ

保証人が見つからず賃貸契約が結べない為、住む場所が確保できない。また、自立した生活を安定して送るための基礎的な力（調理・掃除等）も十分に備わっていないといった問題もあります。

### 頼れる大人の不在と孤立感

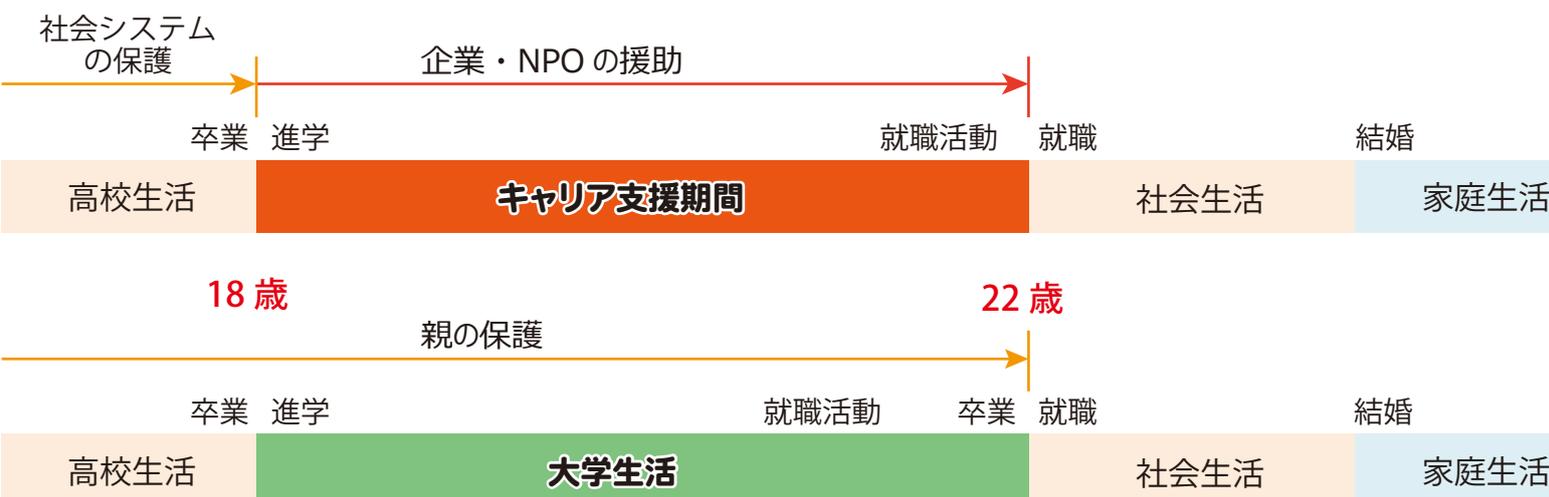
困難に直面した際に頼れる大人の存在がないといったところが現実です。心の支えとなる存在を見つけるのが難しく、他者との信頼関係を築けずに孤立してしまうケースも少なくありません。

### 心身の健康に関する不安

収入が限られているため、具合が悪くても病院を受診できないケースもあるようです。健康上の問題は、仕事の継続や日常生活に影響を及ぼし、安定した生活を築くうえでの大きな壁となっています。



## 社会生活基盤構築の援助



# キャリア構築システム

18歳

22歳の春、キャリア・資産をもって一般社会へ独立していくための準備期間。

22歳



① 居住環境を提供



③ キャリアスキルアップ支援



社会生活デビュー



② 労務環境を提供



④ 生活開始の資金貯蓄



## 支援とメリット

サポート



4年間の雇用



居住環境



運用資金



ブランディング 企業イメージ向上



メリット



労働力確保



若い労働力の回転



ケアリーバー支援基金設立予定

目標金額：3,000万